

「草野心平」 (1月26日)

「・」

これ、何だと思えますか？

実は、これは、詩なんです。



草野心平さんの詩でタイトルは「冬眠」というタイトルです。

草野心平さんの「春のうた」という詩は4年生で勉強するので、知っている人もたくさんいると思います。

「春のうた」 草野心平

かえるは冬のあいだは土の中にいて春になると地上に出てきます。
そのはじめての日のうた。

ほっ まぶしいな。
ほっ うれしいな。

みずは つるつる。
かぜは そよそよ。
ケルルン クック。
ああいいにおいだ。
ケルルン クック。

ほっ いぬのふぐりがさいている。
ほっ おおきなくもがうごいてくる。

ケルルン クック。
ケルルン クック。

草野心平さんのカエルを扱った詩は、実は他にもたくさんあります。春から夏、秋、そして冬と、カエルになった気分で描かれている詩で、とてもおもしろい詩ばかりです。

「春のうた」で生き生きと描かれているカエルたちが、季節を過ごし、冬になると、「おれも眠ろう」となるわけです。

おれも眠ろう 草野心平

るるり。
りりり。
るるり
りりり。
るるり。
りりり。
るるり。るるり。
りりり。
るるり。るるり。るるり。
りりり。



そして、眠ってしまったカエルたちは、

「冬眠」として表現されています。全部を通して読んでみると、それはそれはおもしろいのです。

「冬眠」 草野心平

「・」



興味のある人は、ぜひ、通して読んでみてほしいと思います。